

<金標準、10年物国債金利の上昇リスクで戻り売り基調・・・>



(出所：オアシス)

米国の消費者物価指数（CPI）が前月比で0.6%、前年比3.8%、コア前年比でも2.8%となり、翌日の生産者物価指数（PPI）でも前月比が1.4%、前年比は6%、コア前年比も5.2%となるなど、インフレ懸念が高まりを見せ、来年早々に利上げ実施の可能性が高まりを見せている。またトランプ大統領はインタビューで「われわれよりも中国がホルムズ海峡の開放を必要としている。われわれには必要ない。全く必要としていない」と語るなど、WTI原油先物は105.49ドルまで高値を試し、世界のインフレ懸念が高まった事から米国10年債は4.5%を超え一時4.603%を付けている。そのため金利を生まない金にとって悪材料となり、金標準先物は23763円まで下値を試している。特に10年債が今後5%を超えると債務持続性への懸念が強まり、世界の企業の借入れコストにも圧力がかかり、株式市場から資金シフトを招く可能性が高まるため、金価格も連動した値動きを示す可能性が高く、再度23469円を試す値動きには注意が必要に思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが切り下げ、シグナルも切り下げている。RCIは短期が下げながら、長期も下げている。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジを下回りながら、指数平滑移動平均線のレンジも下向きであり、戻り売りに注意が必要に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,125,000 円(2026 年 5 月 18 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 112,200 円(2026 年 5 月 18 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>